

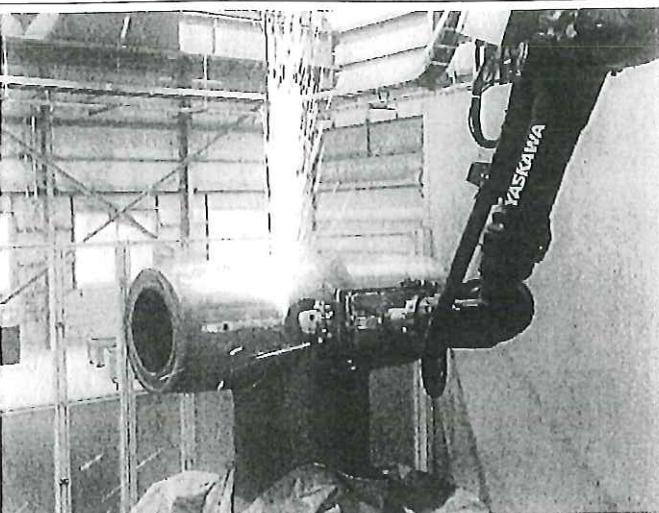
鋳物向け 自動化提案強化

三明機工 国内・中国で顧客開拓

【静岡】三明機工(静岡市清水区、久保田和雄社長、054・366・0088)は、国内外で鋳物・ダイカスト向け自動化設備の需要掘り起こしに力を入れる。ロボットを組み合わせた自動化提案の強化などで、国内の顧客を開拓する。海外は中国市場を重視して提案する。生産性を高める自動化への需要を取り込み、2022年3月期に19年3月期見込み比約3割増の売上高40億円を目指す。

三明機工はロボットや工場自動化(FA)システム、ダイカスト関連の自動化システムの提案を強みとする。

性向上を目的とした投資に照準を合わせ、鋳物分野で需要を掘り起こす。



新規顧客開拓を狙い投入した3Dグラインダーシステム

亞徳林機械からは、5システムの受注実績がある。継続して1システムの受注を決めるなど累計10システムの受注を目指す。

また、需要発掘に向けて19年をめどにロボットラボを設置する。人材育成や顧客と詳細を検討する場所として活用する。また13日に発足するロボットシステムの新団体「FA・ロボットシステムインテグレータ協会」に参加し、企業間連携のネットワークづくりや人材育成につなげる。

鋳物関連の顧客の多くが設備の更新時期にあることや、活発な生産

向けて3次元(3D)カメラを使ったロボットを使って自動研削するグラインダーシステムを提案する。人手不足による現地メーカーの蘇

的として4月に営業部を設置した。鋳物作業をめどに、蘇州に建設する新工場に導入する、アルミニウムダイカスト部品製造向け自動化マシンの後工程を自動化するラインで、蘇州